

GOKURAKUJI DAYORI  
極楽寺だより  
2021(令和3)年 4月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

# 春の永代経法要の「案内」

慈しみの光あふれる春となりました。

生命の息吹を感じるとき、お浄土の人となられた方々が懐かしくしのばれます。

阿弥陀さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を味わい、仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次の通り

お勤めします。お誘いあわせて、お参り下さい。

四月二十一日（水）

昼一時半

【野波瀬の方】

※今回も、地区別に参拝日を分けました。ご都合により、違う日にお参りされても構いません。

夜七時半

【自由参拝】

※長門市におけるコロナ禍の状況次第で、急遽中止となる場合もあります。

四月二十二日（木）

昼一時半

【野波瀬以外の方】

※市外の方は、申し訳ありませんが、今回も参拝自粛をお願いします。

御講師

長門市 江良 光浄寺住職

小内良文 師



マスク着用をお忘れなく！

## 花まつり

※ コロナ禍により、今回は甘茶の接待、お持ち帰りはありません。ご了承ください。



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝いします。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。ご自由に甘茶をかけ、お参りください。

# 月々の言葉

Monthly Words



まいた  
種は  
実る

極楽寺掲示伝道



3月の言葉

「原因があるから結果があり、結果には必ず原因がある」というのが、仏教の基本的な考え方「因果の道理」です。仏教では、この道理によつて迷いを解決していきます。そしてこの考え方は、私たちの日常生活にも「因果応報」「自業自得」などの言葉として、馴染み深いものになっています。

しかし、注意しなくてはなりません。「まいた種(原因)が実る(結果)」。その間にあるものに思いを馳せることがなかったら、逆に迷いが深まり、苦しみが増していくことになりかねません。

新型コロナウイルスの猛威が世界を覆う中、「感染する人は自業自得」と考える人が、他国と比べて突出して多いのが日本なのだそうです。でも冷静に考えてみれば、どんなに気をつけても感染する場合はありますし、まったく気にせず暮らしても感染しない場合もあります。短絡的に因と果を結びつけることは、人を

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

追い込み、苦しめることにも繋がるのです。

世界の貧困や不公正など平和と人権に関わる問題に、仏教精神に基づき宗派を超えて取り組むアーユスというNGOがあります。そのスタッフだった三村紀美子さんは、以前は外資系企業に勤務されていました。そこでは「これをこうすればこうなる」と理詰めで考える、合理的で効率的な方法が重んじられていました。すると仕事をしていくほどに、色んなことを背負い辛くなつたと言われます。なぜなら、うまくいかない「自分に原因がある」と思ってしまうから。巷で言われるところの自己責任論です。

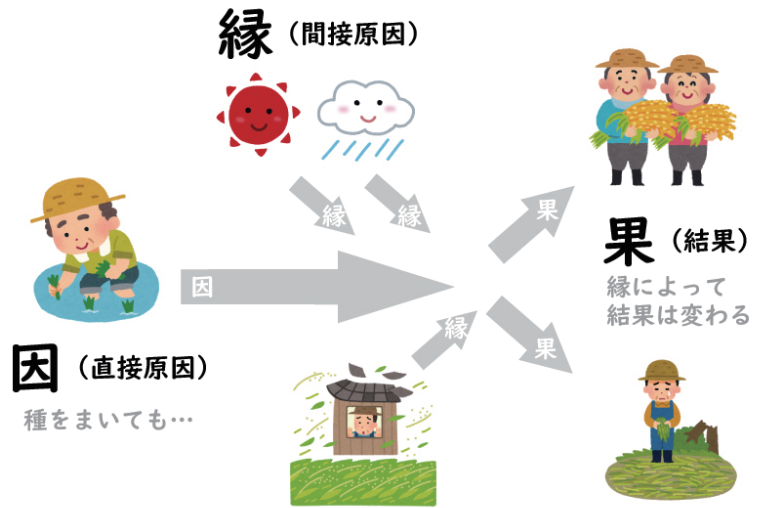
考えてみれば、「自己責任」と言いながら、責任を押し付け合う無責任な社会になりました。個人的な問題なのか、組織的な問題なのか。個人的な問題であつたとしても、その裏にはどんな背景があるのか。みんなが当事者として分析すれば、色んな改善点が見えてくるはずなのに、「自己責任」の一言で責任を押しつけてしまう。こうなると、真面目な人であるほど自分を責めてしまいます。ところが三村さんは、アーユスのスタッフになり仏教と出会うことで、見方が変わったのです。

仏教の「因果の道理」とは、原因から結果へ一直線で結ばれるものではありません。「因」とは、「因縁」のことです。直接的な原因である「因」と、間接的な原因や条件である「縁」のことをいいます。つまり、一つの原因だけではなく、様々な条件が関

係し合つて結果がある。人も社会も事業も、様々な縁で繋がっている。そう知らされると、気持ちが楽になったというのです。もちろん、安易な責任転嫁ではありません。すべてを自分が背負う必要も、自分をダメだと責めることもしなくていい。みんなで一緒に責任を背負っていける。そんな教えと、そしてその道を歩む人たちと、出遇えたからなのです。

原因から結果へ一直線に結びつけることを、「因果の道理」とは言いません。種も、まきさえすれば実るわけではありません。そこには適度な日照時間や肥料が必要で、自然災害がないことなど、様々な「縁」がなければ実らないのです。

思想家で武道家の内田樹先生は、近頃は「植物的時間」が見失われてしまい、私たちは「工学的時間」の中で生きていくと、



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

指摘されています。

人類史のなかで農業が主な産業だった時期は長い。だから昔から「植物的時間」で物事が考えられていた。学校教育でも、子どもたちの成長は農業の比喻で語られていた。「種をまき、水と肥料を与え、日に当てて、風水害や病虫害から守ると、収穫期には果実が実る」という言い方や、学級通信も「わかば」「みのり」というようなタイトルだった。幼稚園のクラス名も「うめ組」「ひまわり組」など植物の名前が使われていた。植物的時間というのは、基本四季のサイクルだからのんびりしたものだったし、親や教師が管理できるのはせいぜい全体の二、三割。あとは自然の力に任せるという感覚があった。



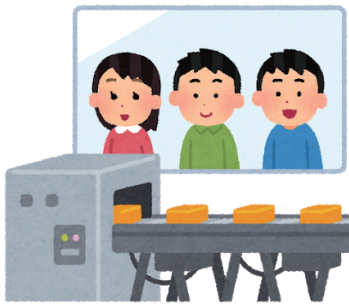
自然とは本来、人間の力ではコントロールできないものだから。ところが産業構造が変わり、工業的な比喻が用いられるようになった。学期ごとに到達目標が数値的に示され、「納期」と「仕様」に合わせて「生産」がなされなければいけないと考えが広がった。教育の現場でも、厳しくスケジュールが決められ、「シラバス通りの授業を」とか「学士号の質保証」とか「PDCAサイクルを回す」といった工業用語が使われるようになり、まるで自動車やコンピュータを作るように工程管理と品質保証がうるさく言われるようになった。

つまり、四季のサイクルを基準にした「植物的時間」が棄てられ、納期と仕様に合わせて工業製品を生産する「工学的時間」が採用されることで、すべては人間が管理できるということが前提になったのだといわれるのです。(文春オンライン 内田樹インタビュー「サウル化」が急速に進む社会をどう生きるか?)

確かに、「納期」と「仕様」に合わせて「生産」がなされなければいけないという考え方は、教育に限らず、ここ数十年で急速に広まっていったように思えます。スケジュールが先に決められ、スケジュールに人間が合わせなければならない状況が、至るところに見受けられます。そして、スケジュールについていけない人間は、不良品扱いされ、無能とされ、不要とされていく時代です。まさに、スピードを出して高速道路を走れる者だけが生きること

を許されるかのように。  
でも、考えてみれば、田んぼの畦道をのんびり歩くのもひとつの生き方でしょう。しかしそんな生き方には「落ちこぼれた敗者」という劣等感が深く刻み込まれていく。そんな呪いのような考え方に苦しめられる人は多いのではないだろうか。

内田先生は「人間は生身の生き物であって缶詰や乾電池じゃない」とい



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

責任者出て来い!  
ああしたから  
こうなった  
**自己責任**  
お前のせいだ!  
オレは知らないよ



われまます。当たり前の話です。人間も自然の中に生きていますから、すべてをコントロールするなど無理な話です。

種をまくこと(因)だけではなく、様々なはたらきの中で(縁)、ようやく実はなるのです。ならば、誰か一人の手柄でも、誰か一人の責任でもありません。すべてのものは繋がっているのですから、みんなで喜び、みんなで背負っていくものなのでしょう。しかし、「すべて人間が管理できる」という偏った見方(種)が安易な自己責任論(実)を生み、様々な縁によって強化され、大きな苦しみと迷いを実らせていることは事実です。

三村さんは言われます。「合理的の理とは、凡夫の理にすぎないのかもしれない。仏教の方が本来の意味で合理的、理に適っている気がする」と。私たちが日常的に使っている合理的とは一体どんなものなのでしょう。まずは、そこから考えてみる必要があります。 ■

極楽寺  
ホームページ  
極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、盛りだくさんの内容です。  
極楽寺.comで検索を



## 4月の言葉

今月の言葉は、私にとって本当になぜける言葉です。「これ、あつたら便利だよなあ」と思って購入した商品を、どれだけタンスの肥やしにしたことでしょうか。健康器具や掃除用品…。テレビショッピングの実演販売士さんの言葉つて、どうしてあんなに魅力的なんでしょうか。

毎日新聞の川柳欄に「通販の 有ると便利は 買って邪魔」（仲畑流万能川柳）というものがありません。私たちは、やはり「便利」や「快適」という言葉に弱いのです。ところが冷静になってみると、それは「なくても大丈夫」どころか「買って邪魔」なものだったりするのですよね。

それほど、「便利」や「快適」が優先される時代なのでしょう。そして、「不便」「不快」を避けようとする。そのことよつて、実は大切なものを見失っているのではないかと思うのです。↘

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

近頃は、高齢者や障害者の人たちが、気軽に移動できるよう段差などを解消した「バリアフリー」が一般的になりました。ところが、山口を中心に千葉や東京で介護施設を展開する「夢のみずうみ村」では、「バリアフリー」ならぬ「バリアアリー」が売りののだとか。この施設では段差、坂、階段など、日常にあるバリアをわざわざ配置しています。なぜなら、段差がない施設は、高齢者が自ら身体を回復させようとする意欲を奪ってしまうからです。

人間は、バリアのない便利な機能に慣れてしまうと、それまでしていた動作ができなくなっていくのだそうです。だから、「できる動作」を訓練し、家で「している動作」を維持できるように「バリアアリー」は考えられました。もちろん、無理のない範囲で。手すりや介助も用意されています。考えてみれば、昔の人は長い道のりを歩いておられました。自動車の移動に慣れてしまった私には、とても歩けそうにありません。便利な機能に慣れると、人間の機能というものは衰えていくのですね。

哲学者の鷺田清一先生は、「便利で快適な都市生活は『いのちの世話』をする能力を喪失させた」と言われています。昔は、「産む・



食べる・教える・片づける・争う・病む・歳をとる・死ぬ」といった人間の生活に必要な《いのちの世話》は、みんなで関わっていた。出産するときには、家族が産婆さんを手伝うのは当たり前。食料は、山や自分の家の小さな畑から。燃料の調達も、山で薪になるものを拾ってくる。子どもの教育もみんなで。排泄物の処理も肥溜めを作って肥料にしたり。病気や傷の手当て、介護や看護、看取りや葬儀、埋葬。近所の諍いを収めることも、自分で、みんなで関わってやってきた。だから、「こんな時には、どうふるまうべきか」をわかる人が多かったわけでは、

ところが今や、そういうものは、お金を払ってプロに任せてしまふようになりました。便利にはなりましたが、山に入っても、何が食べられるかわからなくなる。出産の手伝いも、排泄物をどう処理するかも。停電になったら、ガスが止まったら、どうしていいかわからなくなつた。そして、トラブルが起きた時に私たちができることは、「クレームをつけることだけ」になつてしまつたのだと。『しんがりの思想』鷲田清一

黒澤明監督の『夢』という映画には、名優・笠智衆さんの、「人間は便利なものに弱い。便利なものほど、良いものだと思つて、本当に良いものを捨ててしまふ」というセリフがありました。私たちが便利を追い求めることで、いろんなものを失つてしまつたのではないのでしょうか。↓

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

私は、法事のお斎（食事）の席で、できるだけお酒を注ぎ合うようにしています（私はお酒が飲めないの、ノンアルコールビールがほとんどなのですが）。

昔は、手酌で飲むのは非礼とされて

ていました。しかし、「自分のペースで飲みたい」「人に迷惑をかけないように」と、注ぎ合う習慣が廃れています。ところが、思想家で武道家の内田樹先生は、

「自分のグラスが空になったら、面倒でも隣の人のグラスにビールを注ぎ、「あ、気がつきませんで…」と隣の人がビール瓶を奪い取つて、こちらのグラスに注ぎ返すのを待たなければならぬ。「自分が欲するものは他人に贈与することによつてしか手に入らない」という文化人類学的真理を私たちはこういう儀礼を通じて学習するのである」（『ひとりでは生きられないも芸のうち』内田樹）  
と言われています。なるほど。尊重し合うことや、人は一人では生きられないことを学ぶために、注ぎ合う習慣があるのだとしたら、これは大切にしなければならぬ習慣なのでは…と考えたのです。

実は仏教にも、同じようなお話があるのです。

ある人が、地獄に行つてみました。地獄とは、様々な苦しみを



# 月知言葉

が満ちあふれていると云われていますから、どんなところかと覗いてみると、意外なことにすばらしいご馳走が並んでいました。

「なんだ、地獄も結構いい所ではないか」と思っで見ていると、食卓に置いてある箸に驚きました。何と三尺三寸、約一メートルもあつたのです。長い箸ですから、ご馳走をつまんでも、自分の口に入れることができません。にもかかわらず、「これは俺のだ」「いや、俺のだ」と奪い合い、争い合っている。そのため地獄の住人はいつも腹を減らし、餓えに苦しんでいました。

今度は、極楽に行つてみると、極楽にも同じ様なご馳走が並び、やはり地獄と同じように長い箸があるのです。まったく同じ状況なのですが、極楽の住人はおいしそうに御馳走を食べていました。なぜなら、長い箸でつまんだご馳走を自分の向かい側にいる人の口に入れ、お互いに食べさせあつていたからです。そのため極楽の住人は、いつも楽しく満ち足りた心持ちで暮らしていました。これが、『三尺箸の譬え』というお話です。では、私たちの生活は、どうなのでしょう。三尺三寸の箸が不便だからと、一人で食べる事ができる便利な機能を追い求めてしまった。そして、クレームを付け合い、争い合う地獄を作り上げてしまったのではないのでしょうか。

ある方が、「文明とは、人が一人で生活することを可能にするものだ」とおっしゃっていたそうです。便利さを追い求めること

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

## 極楽寺だよりを送りませんか？

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、住職はうれしいのです。

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報に振り回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。少しでもお寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」がお役に立つのでは…、などと思っています。どうぞ遠慮なくお申し出ください。

とで、助け合いを不要にし、機会や経験を減らし、その心を失つてはいないでしょうか。支え合う喜びや温もりを感じる機能が衰えているのではないのでしょうか。「あつたら便利」を追い求めることで、私たちは何を失ったのか。冷静に、立ち止まって考えなくてはなりません。

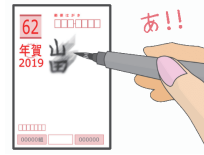


# 物でお布施

mono de ofuse

家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。下記の物があれば、お寺までお持ちください。

書き損じはがき・未使用切手  
未使用 Telefon カード  
商品券・ビール券など金券  
CD・DVD  
ゲームソフト・ゲーム機器



仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス仏教国際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



## プルトップも、引き続き集めています！

本願寺山口別院に送り、換金した後、県内の福祉施設に寄付されます。

### 本堂に設置してある回収箱に、お入れください。

住職からの  
お願いです

引き続き、今回も・・・

## 夜の法座に、お参りください



□球春到来！コロナ禍の中、いよいよプロ野球が開幕しました。ファンの一人として、私もウキウキしています。□ところで「安仁屋算」という言葉をご存知でしょうか。初の沖縄出身プロ野球選手として広島・阪神で活躍され、現在はカープOB会長・野球解説者の安仁屋宗八さんという方がおられます。この安仁屋さんが2011年シーズン前にカープの展望を解説した際、「このピッチャーは○勝する」「彼も△勝する」と予想したところ、全部合わせて101勝という現実離れた数字になりました。期待を込めた数字ではありますが、これはあまりにもポジティブ過ぎると大ウケし（ちなみにこのシーズン、カープは60勝。5位でした）、以来安仁屋さんの予想は「安仁屋算」と呼ばれ、毎年シーズン前の風物詩としてファンに愛されるようになったのです。□いくらカープがここ最近強くなったとはいえ、現実はそう甘くありません。しかしこれがウケているのは、「期待したい」「夢を見たい」というファン心理に響くものだからでしょう。本当に、よくわかります。□しかし考えてみると、今の時代はお店や学校など、私たちの生活を取り巻く環境に対する期待値が、高くなりすぎているのではないのでしょうか。「お客さまは神さまだ」と言わんばかりに、「これくらいやって当たり前」と過剰なサービスを求めているような気がします。求める立場のうちは良いのかもしれませんが、その期待や要求は巡り巡って、いずれ働く自分に向けられるのです。ストレス社会というのは、こうやって出来上がっていくのでしょうか。□「安仁屋算」は、予想が外れるのが当たり前。「そうなれば、いいけどねえ」という遊び心にあふれています。今の時代に必要なのは、そんな遊び心なのかもしれません。反省を込めて思います。（住）



次回法座の予定

仏教婦人会降誕会 5月21日（金）  
夏法座 6月16日（水）17日（木）

御講師 大來尚順 師（山口市超勝寺住職）